

伊丹ルーテル教会 顕現節第4 主日礼拝

2021年1月31日

前奏：

招きのことば：詩編 111 編 1-6 節

ハレルヤ。わたしは心を尽くして主に感謝をささげる 正しい人々の集い、会衆の中で。
主の御業は大きく それを愛する人は皆、それを尋ね求める。
主の成し遂げられることは栄え輝き 恵みの御業は永遠に続く。
主は驚くべき御業を記念するよう定められた。
主は恵み深く憐れみに富み 主を畏れる人に糧を与え 契約をとこしえに御心に留め
御業の力を御自分の民に示し 諸国の嗣業を御自分の民にお与えになる。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんください。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝もともに礼拝にあずかり、あなたのみ言葉をいただいて一週間を始めます。ここであなたの赦しをいただきます。新たにいのちをいただきます。ここから感謝をもって新しい一歩を踏み出します。私たちはみな、罪の力、世の力、悪魔の力にもてあそばされ、とらわれています。イエス様はそれらの力から、私たちを解き放つ権威をもって、今朝も私たちにお語りくださいます。どうぞ私たちを、自分中でわがままな思いから解き放ち、自分の幸せのため、自分の幸せの準備のためではなく、神様のため、隣人の幸せのために生きる者としてください。

新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：1コリント8章1-13節

偶像に供えられた肉について言えば、「我々は皆、知識を持っている」ということは確かです。ただ、知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです。しかし、神を愛する人がいれば、その人は神に知られているのです。そこで、偶像に供えられた肉を食べることについてですが、世の中に偶像の神などはなく、また、唯一の神以外にいかなる神もないことを、わたしたちは知っています。現に多くの神々、多くの主がいると思われているように、たとえ天や地に神々と呼ばれるものかいても、わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。しかし、この知識がだれにでもあるわけではありません。ある人たちは、今までの偶像になじんできた習慣にとらわれて、肉を食べる際に、それが偶像に供えられた肉だということが念頭から去らず、良心が弱いために汚されるのです。わたしたちを神のもとに導くのは、食物ではありません。食べないからといって、何かを失うわけではなく、食べたからといって、何かを得るわけではありません。ただ、あなたがたのこの自由な態度が、弱い人々を罪に誘うことにならないように、気をつけなさい。知識を持っているあなたが偶像の神殿で食事の席に着いているのを、だれかが見ると、その人は弱いのに、その良心が強められて、偶像に供えられたものを食べるようにならないだろうか。そうすると、あなたの知識によって、弱い人が滅びてしまいます。その兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです。このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるのは、キリストに対して罪を犯すことなのです。それだから、食物のことがわたしの兄弟をつまずかせるくらいなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは今後決して肉を口にしません。

福音書朗読：マルコによる福音書 1章 21-28節

一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。そのとき、この会堂に汚れた霊に取りつかれた男がいて叫んだ。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」イエスが、「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて出て行った。人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まった。

讃美歌 500番

- 1 み霊なるきよき神、我が弱き魂を 主のもとに導きて、かくれしめたまえかし。
※み霊よ、み霊よ、我がたまぞあこがるる すがりまつる手をば取りて 主に導きたまえかし。
 - 2 おののける手をささぐ、願わくは取りたまえ、み恵みの君ならで、誰かよく主を示さん※
 - 3 あたいなきわが身をも 涙なく死もあらぬ とこしえの御国へと 君はしも入れたまわん※
- アーメン

説教：「権威ある新しい教え」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様はガリラヤ湖のほとりで漁師だった2組の兄弟をお弟子として呼ばれた後、彼らの家のあるカペナウムという町にお着きになりました。お弟子を連れてイエス様はいよいよお働きを始められます。お働きの場は、日常とは違った特別な場ではなく、人々の公けの礼拝の場である会堂でした。今日読まれた箇所少しあとに出てくるマルコによる福音書1章39節には、イエス様はガリラヤ地方のすべての会堂を訪ねて、宣教し、悪霊を追い出されたと記されています。カペナウムで安息日が来たのでイエス様は会堂でお話になりました。

人々はイエス様のお話にたいへん驚きました。イエス様がいつもお話をする律法学者と言われる人とは違うお話をされたからです。どんなお話をされたのでしょうか。その内容はここでは書かれていませんが、人々がとても驚いたのは、「律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったから」と記されています。

権威ある者と言えば、当時の律法学者は権威をもっていた人でした。聖書から、神様はこのようなお方です、と真理を知識として教え人々を信じさせました。また、私たちは精一杯神様に従っていきましょう、と努力目標を掲げて人々を従わせました。会堂で聴いている人の中で逆らう人がいたら、おそらくその場からつまみ出すくらいの権威をもっていたことでしょう。

しかし、人々がイエス様のお話を聞いて感じた権威は、また別の権威だったようです。どんな権威だったのでしょうか。そこで起こったひとつの出来事で、人々はイエス様の新しい教えが神様の権威をもっていることがわかりました。

そこでこんなことがあったのです。お話を聞いていた人の中に汚れた霊に取りつかれた男がいました。彼はイエス様の権威ある教えを聞いて叫び始めました。何を叫んだのかということも記されています。汚れた霊はイエス様に向かって大声で、「ナザレのイエス、私はお前の正体を知っているぞ。神の聖者だろう。私たちが滅ぼしに来たのだ。私たちが放っておいてくれ」叫びました。

汚れた霊はイエス様が神の聖者だということがわかっていました。汚れた霊とは、神様に逆らった霊です。汚れた霊は人に偽りを吹き込み、自分と一緒に神の裁きを受ける道連れにしようとする霊です。そして、イエス様は神の聖者として、このような神様に従わず人に害を与える悪霊を滅ぼすために来られました。イエス様の神の聖者としての権威を、汚れた霊は察知したのです。それで「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか」と叫んだのでした。教えて指示して威嚇するだけの律法学者の権威とは違う権威を、神の聖者のイエス様に感じていました。

汚れた霊はイエス様が人々の救い主であると知っていたのです。確かにイエス様は、私たちが救う救い主として来てくださいました。イエス様は私たちが縛っている罪の力、世の力、悪魔の力から私たちが解放するために来てくださいました。イエス様は私たちが苦しめている力をその身に受けて、ご自分が苦しみ、死なれることで、私たちがその力から解放してくださいました。ご自分の身にすべての苦しみを受け止めて下さって克服することで、私たちにその力が及ばないように守り、私たちがその力から解放してくださいました。私たちが上から支配する権威ではなくて、私たちのために僕となってお仕えくださった権威です。マルコによる福音書 10 章 45 節には、イエス様は仕えられるために来たのではなく、仕えるために来てくださった。また、多くの人の身代金として、ご自分のいのちをささげるために来てくださったと記されているとおりです。

イエス様は罪の力に打ち勝たれました。イエス様は私たちのために、また私たちの代わりに苦しみを負い、罪の誘惑にさらされてくださいました。安易な道にいなう罪の誘惑に打ち勝って、十字架の道を歩まれました。ゲッセマネの園で血の汗を流して罪の誘惑とたたかってくださいました。

また、イエス様は世の力を克服されました。人々に捨てられ、弟子たちにも見捨てられました。人々はイエス様を十字架につけよ、と叫び、十字架で苦しむイエス様に神の子ならそこから降りてこい、とあざけりました。兵隊たちに捕らえられて十字架につけられそうになっていくイエス様を見て弟子たちもこわくなってそれ以上従っていくことができませんでした。弟子たち

はイエス様を見捨てて裏切り、離れていきました。しかし、イエス様はこの苦しみから逃れることをせず、まともに味わい、克服していただきました。

そしてイエス様は悪魔の力に打ち勝ってくださいました。「我が神、我が神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と十字架上で血を流しながらイエス様は叫ばれました。悪魔は自分たちを滅ぼすイエス様をおそれていましたので、激しく抵抗してイエス様を殺したのです。イエス様の叫びは、悪魔が勝って、救い主を滅ぼしたことを証明することばに見えます。しかし、実はその正反対でした。実は悪魔の全力をその身にすべて受けつくしてくださり、私たちの代わりに父なる神様から見捨てられてくださったので、悪魔はイエス様とともに葬られたのです。イエス様を信じる者は悪魔の力から解放されるのです。神様は私たちの救いをご自分の命をかけて成し遂げて下さったイエス様を、三日目に復活させてくださいました。復活されたイエス様は、私たちのために悪魔の力に打ち勝ってくださいましたイエス様です。

神の聖者であるイエス様が自分が紛れ込んでいた会堂に来てお話をされたので、汚れた霊はたまらず叫び声をあげました。イエス様に権威があるからです。汚れた霊が人々に偽りを吹き込んで、人々を巻き込んで自分たちと一緒に神様の裁きを受けさせようとするたくらみを、イエス様にはとめる権威があったからです。

イエス様は汚れた霊に向かって、黙れ、この人から出ていけ、と権威をもってお叱りになりました。その人を会堂から追い出すのではなく、汚れた霊をその人から追い出される権威をお持ちだったのです。汚れた霊はイエス様に逆らう力をもっていません。その人を痙攣させて、大騒ぎをしながら出ていったと記されています。

イエス様が、罪の力、世の力、悪魔の力から私たちを解放してくださる権威をお持ちであることを人々は知りました。イエス様の評判はガリラヤの湖の西側に広がるガリラヤ地方とよばれる一帯の隅々まで広まっていきました。

イエス様はこのあと、十字架に向かって歩みながら、多くの病気の人々を癒したり、人々から悪霊を追い出して、罪の力、世の力、悪魔の力に苦しめられている人々を助けてくださいました。マルコによる福音書 10 章 27 節でイエス様は、人にはできないが神様にはできないこと（はない）、と言われて、神様が人々にイエス様を信じて歩む信仰を与えてくださると教えてくださいました。イエス様の福音は、私たちの自分勝手な願い事を便利に聞いてくださる救いではありません。そうではなくてむしろ、罪と世と悪魔のとりこになっている私たちをその力から解放してくださる権威ある福音です。そして福音を信じる信仰は、イエス様の権威あるみ言葉によって、神様が私たちに作ってくださいます。

私たちのために十字架にかかって苦しみぬき、死んでくださったイエス様は、父なる神様によって復活の命を与えられ、今も生きて私たちと共にいてくださいます。私たちは洗礼によってこのイエス様の十字架と復活にあずからせていただきます。

今朝もここでイエス様の権威あることばが語られました。あなたの罪を赦し、罪と世と悪魔の力から解き放って、神様からの新しい命を与えるイエス様の権威ある言葉です。

神さまから心が離れて、罪のために苦しんでいませんか。愛と真実の神様がいらっしゃるのに絶望したり、あきらめたりしていませんか。自分の罪を悲しんで、神様に向き直り、すべてを神様の御手におゆだねして歩みましょう。

世の力に抵抗しきれず苦しんでいませんか。人のことば、人の目は鋭い凶器のように私たちを傷つけ痛めます。社会でまかり通る不公平に不義に圧倒されて、心ふさぎ込んでいませんか。神様に目を上げて助けを求めましょう。神様は試練と同時に逃れる道も備えて下さっていることがイエス様の心をいただいて見ることができます。

悪魔は偽りの前提を私たちに思い込ませて、神様の愛と真実を見ることができないようにします。実に巧みに私たちが神様を避けるように導いて、ついにはそのために私たちが神様の恵みを離れて神様のきよい裁きに服するようにと企てています。権威あるイエス様がともにいてくださるところで、その企てが明るみに出されます。悪魔の策略に打ち勝ってくださったイエス様を信じて、心騒がせず、安心して歩みましょう。

この一週間も、イエス様に罪と世と悪魔の力から解き放たれ、私たちが思うこと、語ること、行うことで人々の幸せに役に立っていくことを喜ぶ一週間となりますように、ともにお祈りいたしましょう。

「愛する神さま、イエス様は権威あるみ言葉をお語りになりました。汚れた霊を追い出してくださいました。今私たちに、イエス様を信じる信仰を新たにし、罪と世と悪魔の力から解き放ってくださいました。感謝をいたします。この一週間も喜びにうちにどうぞ導いてください。主イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

讚美歌 524 番 献金 献金感謝の祈り

1 イエス君、イエス君、み救いに 我をももらさで いれたまえ。

※主よ、主よ、聞きたまえ、砕けし心の 叫びをば。

2 みまえにうちふし わが悔ゆる 心のなげきに こたえませ。※

3 きみのいさおにぞ ただ頼らん、か弱きこの身を 助けませ。※

4 望みのもとなる 主のほかにも、天(あめ)にも土にも 救いなし。※ アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出されたまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。**アーメン**

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ、み栄えあれ。**アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。**アーメン**

後奏